

既設キャンプ場のリニューアル事例の紹介

「阿寒国立公園 和琴野営場」

北電総合設計株式会社 環境部環境技術室主任 赤根慶一

はじめに

北海道では、約半年間は寒さと雪との共生が必要となるシーズンとなるが、数多くのキャンプ場が存在し、市販の北海道キャンプ場ガイドの掲載数は三五〇カ所程度となっている。国立公園施設を含めた官営のキャンプ場は良心的な料金や優れた立地からユーザーの支持を得ているが、整備後三〇年以上を経た施設も多く、道内では近年、老朽化やニーズ変化への対応のため、国立公園のキャンプ場リニューアルが実施されている。

弊社では、平成二二〜二三年度にかけ、環境省釧路自然環境事務所 所の発注により、阿寒国立公園和琴集団施設地区内の和琴野営場の改修基本計画および基本設計・実

施設計を受注し、平成二六年七月にはリニューアルオープンに至っている。本稿では、既設キャンプ場のリニューアル事例として経緯や内容をご紹介します。

対象施設の特徴

和琴野営場は屈斜路湖南岸の火山活動で形成された和琴半島の根元に位置し、集団施設地区内には当野営場の他、宿泊施設・民間野営場・売店・駐車場等の施設がある。和琴半島は火山活動の痕跡となる温泉や硫気口跡、原生的なトドマツ林等の豊かな自然を有し、半島の外周には全長二・五kmの自然探勝路が整備されている。

野営場規模は約一・四ha、収容数は五〇張三〇〇人（再整備前）、開設時期は六月中旬〜九月中旬の



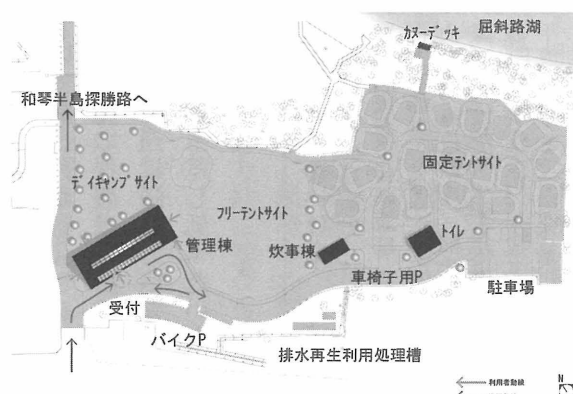
リニューアルした管理棟

三カ月間であり、管理運営は（一財）自然公園財団川湯支部に委託されている。

利用者数は平成一七年度が年間二、六〇〇人程度、平成二二年度が一、七〇〇人前後と減少傾向にあった。また、野営場の施設整備は昭和五四年から開始され、近年施設の大半が耐用年数を過ぎ、設備故障等の不具合が生じていた。

リニューアルの経緯

平成二二年度に実施した基本計画では、現地踏査や文献調査の他、利用者アンケート（八六件利用者数一四三人分）の分析により、課



リニューアル後配置図

題やニーズの把握を行った。調査の結果、①設備老朽化による利用不具合・維持コスト増大、②人工物が目立つ野営環境、③湖畔との関係が希薄、④主要な利用者層を見据えた施設充実、⑤隣接する自然教室や探勝路等との連携強化が必要との課題が抽出された。

各課題を踏まえ、①環境配慮型設備導入による維持コスト低減、②施設の適正な規模設定・集中配置による景観向上、③湖畔を意識した動線とサイトの配置、④利用者層のすみ分けを意図したサイトの設定・機能充実、⑤管理棟に自然教室機能を集約し、探勝路のゲート機能を付加するといった基本

的な考え方に基づく計画案を取りまとめた。

その後、平成二三年度には基本・実施設計が実施され、弊社は建築設計を担当し、園地設計は北海道造園設計(株)が担当した。

工事は夏の利用ピーク時期を避け、平成二四年度の秋より着工となり、初年度は既存施設の撤去、園地・炊事場・トイレ等の整備が実施された。平成二五年度は全期間閉鎖とし、年度一杯管理棟等の整備が実施され、平成二六年度夏に再オープンに至った。

リニューアルの見どころ

①探勝路のゲート機能の付加

野営場は半島探勝路入口に位置するが、従来、野営場駐車場が前面に配置され、探勝路の駐車場として誤解を招きやすく、また野営場および探勝路のゲートとして魅力に乏しかった。リニューアルに際し、別棟の自然教室を統合した管理棟を前面に配置し、ゲートとしての空間づくりを行った。また駐車場は利用状況を踏まえた適正規模に見直し、園内の道路に線状に配置することで利便性と景観性

を高めた。

②野営環境の質の向上

従来は園内に施設が数多く点在し、区画も直線的であったため、人工的な印象であった。湖畔側にサイト、湖畔と反対側に各施設を



園内整備前(施設数が多く目立つ)



園内整備後 写真提供：北海道造園設計(株)
(施設を集約、野営環境の質向上)

集中配置し、湖畔側の人工物を少なくし、野営環境の質の向上を目指した。またサイトは管理棟に近い手前側は主にライダーを対象としたフリーサイト、奥側は主にマイカー利用の家族等を対象とした固定サイトと明確に区分し、利用者層のすみ分けを図った。

③湖畔との連携

湖畔とサイト間には鬱蒼とした樹林が存在していたため、樹林内を整理し見通しを確保するとともに、湖畔により近接したサイトの設置、カヌー利用者のためのデッキ設置により湖畔の野営場としての魅力を高めた。

おわりに

平成二二年秋に初めて現地を訪れた際に、和琴半島の探勝路や湖畔に隣接する環境を生かした魅力的な野営場にしたいと感じ、その思いをもとに、釧路自然環境事務所や(一財)自然公園財団の関係者の方々とともに計画・設計を取りまとめ、リニューアルが実現した。

リニューアルに対してネット上の口コミでは好意的な意見の他、

料金が高くなった、設備が立派過ぎるとのご意見も見受けられた。キャンプへの価値観は人それぞれであり、すべてのユーザーを満足させることは至難の業であるが、国立公園施設としては、各固有の自然環境を引き立たせ、味わえる環境づくりが利用者の満足につながるものと考えられる。私自身も、少々遠方ではあるが片道三六〇km先の和琴野営場をユーザーとして体験し、さらに魅力的なキャンプ場のあり方を模索していきたい。最後に本業務の実施並びに本稿の掲載に際し、御理解、御協力いただいた釧路自然環境事務所、(一財)自然公園財団川湯支部、北海道造園設計(株)の関係者の方々に深く感謝申し上げます。

赤根 慶一 ●あかね けいいち

技術士(環境部門) 埼玉県生まれ。一九九九年筑波大学芸術専門学群環境デザインコース卒業後、(株)ブレッック研究所勤務、二〇〇五年より現職。

【北電総合設計株式会社概要】道内を中心に社会資本整備の「企画、調査、設計、施工監理並びに維持管理」に係る一貫した業務を行う総合建設コンサルタント。北海道電力グループ。